

<p>歴史・地理</p>	<p>【代表的な研究テーマ】</p> <p>□ シンガポールにおける宗教と社会の関係</p>
<p>key word</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ■ 宗教 ■ ジェンダー ■ シンガポール ■ 憑依宗教 ■ 霊媒 	<p style="text-align: center;">課題解決に役立つシーズの説明</p> <p>課題解決： 宗教に関連する諸活動をとおしてみる統治の様式</p>
	<p>シンガポールにおける宗教について、ジェンダーの視点から理解するために文化人類学の枠組みで研究しています。とくに、2018年にはシンガポールの道教系寺廟が国境を越えた活動を繰り広げている点について、中国福建省とシンガポールで調査を行いました。その調査の内容に関しては2018年6月に日本文化人類学会において発表しました。またシンガポールの寺廟や墓地といった、社会的な福利や厚生、親族の系譜や継承に関わる神聖な空間が歴史的な経過のなかで迫られてきた変貌と、それに対して行われてきたさまざまなやり取りについて、信仰を实践する人たちの視点から研究してきたものをまとめ、滋賀大学教育研究支援基金より出版費用の一部に対して助成を受け2018年に公刊しました。</p>
<p>福浦 厚子 Atsuko Fukuura</p>	
<p>経済学部 教授</p>	
<p>【プロフィール】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 専門分野 ・文化人類学 ・宗教と社会 ・ジェンダー 	<p>また、おもに華人系の人びとが集う寺を対象とした調査を行ってきましたが、近年は南アジア系(インド系)やマレー系の人びとも集まる機会があります。南アジア系の人びとはヒンドゥー教を信奉している人が多く、マレー系の人びとの場合は大多数がイスラーム系です。しかし、そういったエスニックな背景とは別に、近年はグローバルな資本の動きに合わせるかのように国内でも社会的に弱い立場の人たちが厳しい格差のある現実を生きて行かねばなくなっています。それらについて実に多様な人びとが支援する活動を行っています。こういったことに関して、2019年3月にシンガポール国立大学アジア研究所で「東南アジアにおける華人系寺廟」というテーマで3日間にわたる国際ワークショップが開かれ発表する機会を得ました。また、現代社会で科学的知識が広まるにつれて、宗教に関する関心は薄れるどころかむしろ逆に関心が高まっている点に関して、同年7月に国際学会(AAS-In-Asia 2019)で発表しました。</p>
<p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『都市の寺廟：シンガポールの神聖空間をめぐるポリティクス』単著、春風社、2018年。 ・ <i>Japanese Visual Media: Politicizing the Screen</i>, Coates, Jennifer & Ben-Ari eds., 共編著, London: Routledge, 2021. ・『自衛官と家族の心を守る——海外派遣によるトラウマ』共編著、海外派遣自衛官と家族の健康を考える会編、あけび書房、2021年。 ・『トラウマ研究2 ト라우マを共有する』共編著、京都大学学術出版会、2019年。 	<p>シンガポールは海外からの移民受け入れに関して、2014年からそれまでの大幅拡大と比べると厳格化したとはいえ依然として世界でも最大比率の移民受け入れ策をとっています。そのため、人口は増加しており、同時に国土が狭小のため土地利用に関しては制限が多くなっています。この点に関してモノをめぐる神聖性という視点から2020年8月に国際学会(AAS-In-Asia 2020)で発表しました。</p> <p>また、これまで軍事組織と社会との関係について研究してきた成果が2021年に2冊公刊されました。宗教と社会との関係といったテーマとは異なりますが、いずれにしてもジェンダーの視点で考察しています。</p>